

# 説 明 資 料

## (報告事項)

### 1 令和3年度大分県立図書館運営状況評価 について

**資料1** 令和3年度大分県立図書館運営状況に関する評価

## (議 事)

### 1 令和4年度活動報告、令和5年度基本方針及び重点目標について

**資料2** 令和4年度活動報告

**資料3** 令和5年度基本方針及び重点目標

### 2 諮問事項「障がい者等の読書環境の整備について」について

**資料4** 答申素案に対する委員意見と対応（案）

**資料5** 障がい者等の読書環境の整備について（答申最終案）

## 令和3年度大分県立図書館運営の状況に関する評価

## ○ 図書館法

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

## ○ 評価の方法

各年度に定めた重点目標ごとに評価指標を設定し、年度終了後、それぞれの指標ごとの実績値について自己評価を行い、それに対して、図書館協議会委員が外部評価として意見を記載する。自己評価及び外部評価としての委員意見をあわせてHPにより公開する。

なお、自己評価はAからDの4段階とする。

A:非常に成果があがっている。

B:成果があがっている。

C:それほど成果があがっていない。

D:全く成果があがっていない。

## ○ 評価

## (1) 県民の読書活動の推進

## 評価指標

## ・ 入館者数

令和3年度実績	316,289
令和2年度実績	275,192

自己評価	理由
B	入館者数が令和2年度に比べて、41,097人(14.9%)増加し、減少傾向に歯止めがかかったことは一定の評価できる。しかし、要因の一つとして開館日数や開館時間の増が考えられる。また、新規登録者数も微増に留まっている。

## 委員意見

電子書籍の普及から、なかなか図書館まで足を運ぶのが厳しい状況の中で、公共図書館がどのように生き残っていくかが課題だと思う。

コロナ禍での増加は意義があると思う。

この時期の開館日や時間の増は大いに評価できる。

評価は適切である。

コロナ禍であるが、事業の参加人数が増えているものもあり評価できる。

新型コロナの影響が長期化する中で、減少傾向に歯止めがかかったことは評価してよい(むしろ問われるのは今年度の実績であろう)。コロナ禍でのサービスの制限は当面必要だと思うが、開館時間の制限についてはその有効性を含めて再検討する余地があるように感じる。新規登録者数の増加なしには図書館の明るい展望を見出しにくいと思うので、とくに若い世代を図書館に呼び込む努力を継続していただきたい。

コロナ禍で入館者数が増加したことは一定の評価ができる。開館時間や時間の増も確かにあるかもしれないが、R3でのコロナに対する考え方も変わってきたのではないかと感じる。このコロナ禍でWEBでの書籍の購入や電子書籍の購入に変わった方々も多いのではないかと感じる。来館者数や貸出冊数にも直結するので今後も注視していく必要がある。

コロナ禍で令和3年度の入館者数が増加したことは、その対策の充実、その他いろいろな工夫が奏した成果だと思う。大人が積極的に地元、あるいは県立図書館へ子どもを連れてきて楽しんでほしい。誰一人取り残さないサービスをということで、なんらかの障害を持っている方々や、外国から来られた方々一人一人に即した利用しやすい図書館の在り方を準備していくこと、あるいは今まさにに計画中的のものがあることは素晴らしい。

開館日数、時間の増が入館者数の増加につながったのであれば、ライフスタイルが多様化する現代では、対策として有効であると思われる。おはなし会、読み聞かせ、映画上映など、子ども向けのイベントをPRして利用してもらおうことが、長い目で見て利用者を増やすためには重要になる。

入館者が増加に転じたことは、大いに嬉しい。人々がWITH コロナの状況の中において感染予防を講じた上で県立図書館に足を運ばれることに前向きな証拠です。但し、開館日数や開館時間の増がスタッフの方々の負担が増えているのであれば、方策を考えざるを得ないと思う。

(2) 資料収集・保存・提供の推進

評価指標

・ 全資料数(デジタル化資料を含む)

令和3年度実績	1,230,066
令和2年度実績	1,220,684

自己評価	理由
A	県立図書館としての蔵書構成を維持し、専門書を中心に幅広い資料収集に努めた。一般資料の専門書購入割合は49.7%と高水準を維持し、電子書籍の充実も図った。また、収蔵スペース確保のため、重複本等の不用除籍を進め、蔵書の絞り込みを行った。

(3) 市町村立図書館、学校図書館等支援

評価指標

・ 協力貸出冊数

令和3年度実績	20,637
令和2年度実績	23,838

自己評価	理由
C	小中学校の新規登録が進み、小学校では、利用が伸びた。しかし、高等学校と特別支援学校の利用が大きく減少し、結果として全体で約3千冊の減となった。

委員意見

デジタル化が進むことにより利用できるようになる人が増えるのではないかと期待している。
評価は適切
専門書購入割合を高める方針の維持、電子書籍の充実ともに高く評価できる。郷土資料利用担当の新設も意欲的な取り組みとして評価できるが、これによって具体的に何がかわるのか・利用者サービスにつながるのかが注目される。 増え続ける本の収蔵スペース確保のための除籍強化は必須事項。分野によって情報が古くなる進捗には相当な差があると思うので、適切に判断しながら進めていただきたい。
今の時代に合った素晴らしい取り組みだと感じる。
様々な幅広い分野の資料や専門的な資料も揃えているので、きっと各人の知的欲求に応え、疑問を解き明かすことが出来るだろう。
専門書の収集、郷土資料のデジタル化は、個人活動では難しい、図書館本来の特徴、役目。専門性を高めることは利用促進につながる。
専門性と一口も言っても、さまざまな分野が存在するので、その全てを網羅することは出来ないが、そのような状況の中、専門書の割合が増加していることは喜ばしい。また、郷土資料利用担当の新設は特筆に値すると思う。

委員意見

コロナ禍のなか、昨年度は、高等学校(特別支援学校も)では、学校行事がなかなか元通りに行えていない。今年度になってようやく「通常」というかたちになっていたほど。よって、図書館を利用した調べ学習やグループ学習の形態が戻るのは今年度以降であろうし、県立図書館の支援も今年度以降になってくると思う。
学校が活用しやすいよう学校図書館との連携に努めていただいていることに感謝している。毎年、担当等がかわることもあるので、市教育委員会とも連携し、担当者に県立図書館がしている連携の取組を紹介していただけるとありがたい。
この時期の減少はやむを得ない
評価は適切、高校、特別支援学校の利用減の背景には、①担当者の異動、②図書館を使った対面グループワークの減少があるということだった。①については、担当者の増加、②については、コロナ禍における実施方法の周知などの対策が必要。
高校生の活字離れの影響で高校生の利用が大幅に減少している状況とのことだが、スマートフォンの普及に伴い、今後、中学生の利用減少が予想される。
子どもたち(とくに中高生)の本離れとも直結する難しい問題だと思うが、他の都道府県の公立図書館の取り組みや有識者の意見なども参考にしつつ、粘り強い取り組みを続けていただきたい。
小学校での利用が伸びたことは評価しなければいけない。幼少期から本に触れ、その後の人生を豊かなものにする書籍との出会いがあれば、必ず書籍を読むという習慣ができてくるのではないかと思う。ただ手軽に書籍を購入できる時代になっていることも理解しておかなければいけない。特別支援学校の利用が少なくなっていることは、特別支援学校のカリキュラムがどのようになっているのかも調査が必要かもしれない。
小学校から県立図書館の見学に来ているグループに出会った。彼らは興味深そうにあちこちを見たり、楽しそうに過ごしている。もちろん学校の図書室も楽しいのだけれど、数、種類共に揃っている県立図書館に見学に来てその利用方法を学んだり、実際にその本の感触を試したりといった経験をし、中学生、高校生になっても忘れることなく図書館の楽しみを求めに来てほしいと思う。
新規事業の「施設連携による小中学校支援プログラム」「スクールサービスデイ」などは、図書館に親しんでもらい、図書館の使い方を学ぶいい機会になると思う。
小中学校の新規登録者が進んだことは、素晴らしい。高等学校や特別支援学校へは、県立図書館とネットワークがあることをアピールし、協力貸出を推進してはいかがか。不登校児童・生徒に対しては、教材などをYouTubeを利用して人目を気にする事なく視聴することが出来るようになれば良いと思う。そのためには、動画の編集の知識と機材が必要となる。

(4) 県民の調査研究・課題解決支援

評価指標

・レファレンス件数(簡易なものを除く)

令和3年度実績	7,303
令和2年度実績	7,738

自己評価	理由
B	簡易なものを含めた件数は横ばいだが、簡易なものを除くと微減となった。子ども室での受付は130%増。令和2年度は夏休み短縮等学校の動きの影響が大きかったが、回復傾向にある。ビジネス支援や行政支援に係る相談は増加している。電話やメールによる受付も継続して行った。

委員意見

評価は適切
(私自身が時折利用する経験などから)レファレンス対応の質は高いと思うが、何となく相談しにくいという意見を耳にしたことがある。メールでも相談できることなど、気軽に利用できる場であることを一層PRしていくことも必要ではないか。
特に保護者が子どものために興味をもってレファレンスすることは、子どもの興味関心につながると感じた。今後も同様の取り組みを続けてほしいと願う。
ある本を探している、あるいは何か疑問があってそれを本によって解決したい時等、県立図書館の司書はいろいろな方向からヒントを与えてくれる。そして自分の力で司書さんの与えてくれたヒントを元に答えを導き出すことが出来た時、喜びがある。また家のパソコンで、図書館のホームページを通じて、電子書籍を借りることは魅力的。
ビジネス支援、公開講座など、日常生活に役立つ情報を図書館で得られるという認識が、まだあまり広がってないのではないと思う。PRがうまくいけば利用者の幅も広がるのでは。
レファレンスを行っていることを知らない方もいるかと思うので、更にアピールされてはいいか。県民が何に対して興味を持っているのかをはじめ、生活・健康・経済などより身近な問題を取り上げてみると、県民の方々が足を運んでくれるようになるのではないか。難しいかもしれないが、図書館へ来館した方々に証明書を渡し、それをバスの降車時に見せると一回限り割引料金になるというような企画はいいか。

(5) 市町村社会教育行政等との連携

評価指標

・地域人材等育成研修参加者数

令和3年度実績	1,530
令和2年度実績	1,486

自己評価	理由
A	コロナ禍で集合研修の実施が困難な中、一部オンライン形式を併用することで参加者が確保できた。また、「やさしい日本語」等、新たな地域課題の解決に向けた研修の参加者が大幅に増えた。

委員意見

コロナ禍でオンラインの研修が可能となり、終息後もぜひ活用していただきたい。
オンライン等工夫で参加者が増えたことは大いに評価
評価は適切
大分県点字図書館との連携が必要
社会環境の変化・時代のニーズの多様化に敏感であり続ける必要がある。今後とも多彩な取り組みを期待したい。
コロナ禍で対面だけでなくオンライン研修を併用するなどすることはとても評価できる。コロナが収束している時期でもオンライン研修も行うことで、多くの方が参加でき、県立図書館が地域の拠点としての役割をもち、人材育成につながるのではないかと感じた。
それぞれの年齢層が好みの主題の公開講座に気軽に参加することが出来る。そのことが、さらに未知の知識を広める機会になるだろう。
在住外国人らをターゲットにした事業も、新しい図書館の役割であると思うし、実際参加者が増えていることは評価できることだと思う。多様化社会で、さらにさまざまな分野に目を向けることが必要になってくると思う。
Zoomを活用するなど、コロナ禍の中においても活動が止まることなく、持続できましたことは職員皆様の努力の成果だと思う。社会教育指導者の派遣は継続していただき、長いスパンで人材の育成を担っていただきたいと期待している。

## 令和4年度県立図書館の活動報告



## 県立図書館の役割

だれでも・いつでも・どこからでも

(県民に役立ち、地域に貢献する図書館)

- 県民の読書環境の整備を推進する拠点
- 県民の情報収集を支える拠点
- 県民の学習(課題解決・調査研究)を支える拠点



## 1 利用状況

蔵書冊数：1,230,066冊 (R4.3.31現在)

	開館日	来館者数(人)	個人貸出(冊)	団体貸出(冊)	協力貸出(冊)
令和2年度	290	275,192	476,608	37,633	23,838
令和3年度	315	316,289	502,730	36,389	20,637
前年比(%)	108.6%	114.9%	105.5%	96.7%	86.6%
令和4年度 (1月末現在)	259	238,378	389,792	28,566	17,124

## 2 課題と改善の方向性

## (1) 来館者数・貸出数減少への対応

## ① 非来館型サービスの充実

- ・図書館のDXの推進(新図書館システム・デジタルアーカイブシステムの導入、電子書籍・電子申請・遠隔地貸出サービスの拡充)

## (2) 利用者の固定化・高齢化への対応

## ① 幼少期から本に触れる機会、図書館を利用する機会の創出

- ・小・中学校支援プログラムの充実

## ② 図書館を利用できない、しない人へのアプローチ

- ・読書バリアフリー法等に基づく障がい者サービスなどの充実
- ・課題解決、調査研究支援の充実(レファレンスサービス：ビジネス支援、行政支援)

## (3) 公民館を活用した新たな地域コミュニティの構築

- ・「やさしい日本語」普及による多文化共生の地域づくり

## (4) 施設・設備の老朽化への対応

- ・計画的な保全工事による施設・設備の維持、長寿命化(R4:EV、外壁改修、R5:EV改修)

## 3 主な取組

## ◆ 新図書館システムの導入

## ● 基本方針 ~利用者サービスの充実~

- 1 ホームページの充実とウェブアクセシビリティの確保
- 2 デジタルアーカイブの導入
- 3 横断検索・県内図書館相互貸借機能の導入

## ● 主な新機能・特徴

- 1 アクセシビリティの向上を目指したホームページのリニューアル充実
- 2 デジタルアーカイブシステム(おおいたデジタル資料室)の構築
- 3 市町村立図書館間の本の貸出依頼をオンライン化
- 4 資料利用券の電子化



## ◆ 「やさしい日本語」普及及び学習・交流機会の創出

## ● 外国人とのコミュニケーション拡大事業

社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の普及や交流活動の取組による、県内在住外国人と地域住民のコミュニケーションの拡大

## ● 令和4年度実績 ※数字はのべ参加者数

- ・「やさしい日本語」講演会(日田市・佐伯市、154名)
- ・「やさしい日本語」学習会・交流会(大分市・宇佐市、72名 うち外国人19名)
- ・高校福祉科との連携(講演会・交流会)(大分南高校、156名 うち外国人10名)
- ・交流イベントの企画会議(別府市・中津市、220名 うち外国人63名)
- ・「やさしい日本語」普及・外国人との交流イベント(別府市1回・中津市3回、221名 うち外国人87名)
- ・「やさしい日本語」サポーター育成(別府市・中津市、34名認定)



## ※新規取組

- 障がい者サービスの充実に向けた検討
- 遠隔地貸出サービスの拡大
- 団体貸出の活用促進

- ホームページのリニューアル(再掲)
- デジタルアーカイブシステムの構築(再掲)
- 資料利用券の電子化(再掲)

# 大分県立図書館の新図書館システムについて

—いつでも・だれでも・どこからでも利用できるサービスを目指して—

## 新図書館システムへの更新

- 富士通株式会社の図書館システムパッケージを  
自館カスタマイズ
- 運用期間: 令和5年2月1日～令和10年1月31日

## 更新の基本方針 ～利用者サービスの充実～

- 1 ホームページの充実とウェブアクセシビリティの確保
- 2 デジタルアーカイブの導入
- 3 横断検索・県内図書館間相互貸借機能の導入

## 新図書館システム

### 業務系システム 業務の効率化

#### 【サービス系業務】

- ・貸出・返却
- ・利用者登録
- ・蔵書検索・予約
- ・レファレンス（資料相談）

#### 【管理系業務】

- ・書誌（図書情報）管理
- ・目録作成
- ・資料管理
- ・統計・帳票

→蔵書 123万冊  
利用登録者 24万人  
個人貸出 50万冊  
市町村立図書館・学校貸出 6万冊  
（令和3年度実績）

### 端末・機器



業務端末（職員） 43台



蔵書点検端末（職員） 17台



検索機（利用者） 17台



自動貸出機（利用者） 3台



インターネット端末（利用者） 6台



データベース端末（利用者） 2台

### インターネット公開系システム 非来館サービスの充実

**NEW** ホームページのリニューアル  
アクセシビリティの向上

#### **NEW** デジタルアーカイブシステム （おおいたデジタル資料室）

- ・先哲史料館、公文書館と共同運用
- ・各館の収蔵資料と画像データを検索・閲覧  
図書館：所蔵情報299点（画像付き71点）  
先哲史料館：所蔵情報7813点（画像付き180点）  
公文書館：所蔵情報33727点（画像付き26点）  
（2月10日時点）

→【課題】郷土資料の収集・整理とデジタル化の推進  
県内関係機関との連携  
行政資料のデジタルデータの収集

### 県内図書館支援（大分県図書館情報ネットワーク）

- ・市町村立図書館・学校から県立図書館の蔵書を貸出申込
- ・**NEW** 市町村立図書館間の本の貸出依頼をオンライン化

### 蔵書検索システム（拡充）

- ・ホームページ上で県立図書館の蔵書検索
- ・インターネット上の予約の拡大（在庫予約）
- ・遠隔地（市町村立図書館）への配送

### 横断検索システム

- ・県立図書館と市町村図書館計17館の蔵書を一度に検索

#### **NEW** 資料利用券の電子化

- ・スマートフォン版の資料利用券（試行）

### 電子書籍の利用

- ・資料数：885タイトル

## 基本方針

大分県立図書館は、県民の教養・文化の向上に寄与するため、社会教育法、図書館法並びに本県教育の基本施策を踏まえ、県民の生涯にわたる多様で自発的、継続的な学習要求にこたえるキー・ステーションとして、大分県公文書館、大分県立先哲史料館と一体となって、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる社会教育施設としての機能を果たさなければならない。

そのため、「専門性」と「多様性・広域性」をコンセプトに、県内公共図書館・学校図書館、公民館のみならず、他の行政機関や民間団体とも連携を進めつつ、仕事や暮らし、また地域社会の課題解決等に役立つ図書館サービスの構築・提供を目指す。

## 重点目標

## (1) 多様な県民が利用できるサービスの提供

- ・ 障がい者、高齢者等多様な利用者の読書活動の推進
- ・ 専門書を中心とした電子書籍サービスの充実
- ・ 「やさしい日本語」等を活用した館内サービスの充実
- ・ ホームページ・SNS等を活用した県民の図書館利用の促進

## (2) 子どもの読書活動の推進

- ・ 多言語絵本等の資料提供による子どもの読書活動支援
- ・ 子育て関連イベント等による家庭の読書活動支援
- ・ 小中学生の図書館利用の促進（小中学校支援プログラムの充実）
- ・ 不登校などの様々な環境にある児童・生徒への支援

## (3) 資料収集・保存・提供の推進

- ・ 専門的・学術的資料、郷土資料の収集・保存・提供
- ・ 郷土資料の利活用・デジタル化の推進
- ・ 収蔵スペース確保のための保存資料・書架配分の見直し

## (4) 市町村立図書館、学校図書館、団体への支援

- ・ 職員研修や図書館相互貸借等による市町村立図書館への支援の充実
- ・ 災害対応などの様々なリスクを想定した県内公共図書館の連携・協力体制の構築
- ・ 協力貸出等による学校図書館への支援と連携
- ・ 団体貸出を活用した様々な団体への支援

## (5) 県民の調査研究・課題解決の支援

- ・ 司書の資質向上によるレファレンスサービスの充実
- ・ 行政や民間団体等との効果的な連携(企画展示、相談会、セミナー)
- ・ 幅広い世代を対象にした公開講座・連携講座の充実

## (6) 社会教育の推進と生涯学習情報の提供

- ・ 社会教育関係者研修の推進と公民館等での「やさしい日本語」講座の普及
- ・ 市町村・団体等への指導・助言及び支援（社会教育主事派遣の活用促進）
- ・ 「まなびの広場おおいた」による様々な生涯学習情報の提供

## 基本方針

大分県立図書館は、県民の教養・文化の向上に寄与するため、社会教育法、図書館法並びに本県教育の基本施策を踏まえ、県民の生涯にわたる多様で自発的、継続的な学習要求にこたえるキー・ステーションとして、大分県公文書館、大分県立先哲史料館と一体となって、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる社会教育施設としての機能を果たさなければならない。

そのため、「専門性」と「多様性・広域性」をコンセプトに、県内公共図書館・学校図書館、公民館のみならず、他の行政機関や民間団体とも連携を進めつつ、仕事や暮らし、また地域社会の課題解決等に役立つ図書館サービスの構築・提供を目指す。

## 重点目標

## (1) 多様な県民が利用できるサービスの提供

- ・ **DXの推進による非来館型サービスの充実**
- ・ **障がい等により図書館を利用できない人に対する図書館サービスの充実**
- ・ ホームページ・SNS等による**情報発信の強化**
- ・ 「やさしい日本語」等を活用した館内サービスの充実

## (2) 子どもの読書活動の推進

- ・ 子育て関連イベント(**おはなし会等**)を活用した家庭での読書活動支援
- ・ 多言語絵本等の資料提供による子どもの読書活動支援
- ・ 小中学生の図書館利用の促進（小中学校支援プログラムの充実と**対象の拡大**）
- ・ 不登校などの様々な環境にある児童・生徒への支援

## (3) 資料収集・保存・提供の推進

- ・ 専門的・学術的資料の**積極的収集及び郷土資料の収集・保存・提供**
- ・ **郷土資料のデジタル化、県内関係機関との連携によるデジタルアーカイブの利用促進**
- ・ 収蔵スペース確保のための保存資料・書架配分の見直し
- ・ **専門書を中心とした電子書籍サービスの充実**

## (4) 市町村立図書館、学校図書館、団体への支援

- ・ 職員研修や図書館相互貸借等による市町村立図書館への支援の充実
- ・ 協力貸出等による学校図書館への支援と連携
- ・ 団体貸出を活用した様々な団体への支援
- ・ 災害対応などの様々なリスクを想定した県内公共図書館の連携・協力体制の構築

## (5) 県民の調査研究・課題解決の支援

- ・ 司書の資質向上によるレファレンスサービスの充実
- ・ 行政や民間団体等との効果的な連携(企画展示、相談会、セミナー)
- ・ 幅広い世代を対象にした公開講座・連携講座の充実

## (6) 社会教育の推進と生涯学習情報の提供

- ・ 社会教育関係者研修の**活性化**と公民館等での「やさしい日本語」講座の普及
- ・ 市町村・団体等への指導・助言及び支援（社会教育主事派遣の活用促進）
- ・ 「まなびの広場おおいた」による様々な生涯学習情報の提供

## 障がい者等の読書環境の整備について(答申素案)に対する委員意見について

番号	項目	意見要旨	県立図書館の考え方及び答申への反映(案)
1	第1章 諮問の趣旨	「サビエ」という語が出てくるが、説明が必要ではないか。	ご意見に沿って、「サビエ」を含め専門用語、学術用語等について、「用語編」を作成することとした。
2	第2章 現状と課題 1 現状と環境の変化 (2) 利用登録者数	それぞれの都市の発行している市報への記事の掲載、リハビリ病院や特別支援学校へ出向き、実際に体験してもらうことが必要。	障がい者サービスの周知についての基本的な考え方は、「第3章基本的な考え方」の「2取組の方向性」の「(2) インターネット等を活用した図書館サービスの充実」に記載。具体的な周知方法は今後検討していきたい。
3	第2章 現状と課題 3 課題 (1) 利用可能な書籍等の収集・提供推進に関する課題	「1アクセシブルな書籍等の収集等」が課題として挙げられている。異存はないが、同時の課題として「どんなジャンルが求められているのか」についての調査も必要と考える。	一般資料の収集と同様にアクセシブルな書籍についても、幅広い資料要求に応えられるよう収集に努めていきたい。
4	(2) 障がい者サービスの提供、周知に関する課題 (3) インターネット等を活用した図書館サービスの充実	大分県立図書館ホームページで、バリアフリー図書の利用方法などの説明はされているが、利用可能な資料の具体例、作品リストなどが足りないように思う。利用方法、資料名と調べる項目が多くなる。利用可能な資料、利用方法が一度で分かるような情報提供が必要なのではないか。	令和5年2月に図書館システムを改修し、ホームページの蔵書検索機能にジャンルや資料区分(大活字本、CDブック、電子書籍等)から本を探し出すことができるよう機能を追加している。これにより資料区分毎に資料一覧が表示できるようになっている。
5	第3章 基本的な考え方及び取組の方向性 2 取組の方向性 (3) だれもが利用しやすい施設・設備の充実、老朽化への対応及び利用者の利便性向上	想定が案内所なのかそれ以外なのかは分からないが、視覚障害者で点字が読めるものは約1割程度に減少していることから、点字の案内のみならず、音声案内を充実してほしい。 ・点字や音声案内、ピクトグラム、やさしい日本語を使用したわかりやすい利用案内を充実させる。	ご意見に沿って、以下のとおり「音声案内」について追記する。 ・点字や音声案内、ピクトグラム、やさしい日本語を使用したわかりやすい利用案内を充実させる。
6	(3) だれもが利用しやすい施設・設備の充実、老朽化への対応及び利用者の利便性向上	近年、街中で国外の人々が目立つ。英語の本の拡充、館内の標識、説明があるとよい。	子どもの読書活動支援のため、多言語絵本の収集・提供を行っているところであり、引き続き取組を進めていきたい。答申素案に記載しているが、ピクトグラムや、やさしい日本語を活用した利用案内を充実させていきたい。
7	(4) 障がい者サービスに係る人材育成・体制整備	障がい者自身が各種サービスを学び、そのことにより、図書館の利用を楽しめるということを示しつつ、利用者にサービスを行う。	県では「生涯を通じた障がい者の学び支援事業」を実施し、障がい者の生涯学習活動の関係者が参加する「地域連携コンソーシアム会議」を開催している。こうした機会を利用する等、視覚障がい者等の当事者団体や家族会等の支援団体、また小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に対する周知に努めていきたい。
8	(4) 障がい者サービスに係る人材育成・体制整備	点字図書館、サビエ、聴力障害者情報文化センター、他県図書館、市立図書館などと連携して資料を借りること、スタッフの方々が、板書したり手話を身につけることが必要。	様々な公的機関が特徴を活かし、資料の収集を行っているところであり、それらの機関との連携を強化することで、所蔵していない資料でも提供ができるように努めていきたい。 また、県立図書館が中心となり、必要な知識・技術を身につけるための研修等を実施していきたい。
9	全般 障がい者等からの意見聴取	障がいのある方々のご意見や日頃の困りを聞く機会はあるのでしょうか？そこからの答申と考えてよいのでしょうか。	日ごろから図書館サービスに関して障がいのある方々からの意見聴取に努めているところ。具体的な取組を進めていくにあたり、「地域連携コンソーシアム会議」等の機会を活用するとともに、県福祉関係部局等との連携を図り、利用者ニーズの把握に努めていきたい。
10	全般 文章全体について	この答申は誰に読んでもらわなければならないのかを考えたとき、障害のある当事者であることは言うまでもない。そのように考えたとき、ルビや文字の大きさ、フォント等の読みやすさ、音声による読み上げなど、答申の公開にあたって合理的配慮が求められる。	本答申は県立図書館ホームページへの掲載を予定しているが、ご意見に沿って掲載にあたっては、可能なかぎりアクセシビリティに配慮していきたい。
11	全般 障がいの表記、誤記	障害と障がい混在している。法律名等を除き、統一した方がよい。その他、誤記があるので修正してほしい。	ご意見に沿って、修正したい。



障がい者等の読書環境の整備について  
(答 申)

令和5年3月

大分県立図書館協議会

## 目 次

第1章 諮問の趣旨	1
第2章 現状と課題	2
1 現状と環境の変化	2
2 県立図書館におけるこれまでの取組	2
3 課題	4
第3章 基本的な考え方及び取組の方向性	6
1 基本的な考え方	6
2 取組の方向性	6
第4章 むすび	9

## 添 付 資 料

- (資料1) 公立図書館におけるバリアフリーに関する調査(抜粋)
- (資料2) 用語集
- (資料3) 大分県立図書館協議会委員名簿

## 第1章 諮問の趣旨

大分県立図書館（以下「県立図書館」という。）は、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる社会教育施設としての機能を果たすとともに、県民の教養・文化の向上に寄与するため、活力ある全県的な図書館活動を推進している。

県立図書館は、毎年延べ40万人を超える人に利用されているが、利用者の実人数ははるかに少ない。利用できる環境にあるが、利用していない人も多いと思われるが、障がい等様々な理由により図書館を利用できない人もいると考えられる。

こうした中、平成28年に障がいを理由とする差別の解消を推進することを目的とする「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（以下「障害者差別解消法」という。）、令和元年には、障がいの有無に関わらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的とする「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（以下「読書バリアフリー法」という。）が施行された。これにより、何らかの理由で図書館を利用することができない、本を読むことが難しい人への配慮が、なお一層求められることとなった。

これまでも県立図書館では、重い障がい等のため来館することが難しい人への宅配便での貸出しや市町村図書館を通じての貸出しを行っており、また令和3年度から視覚障がいやディスレクシアなどの理由で活字による読書が難しい方を対象に、サピエや国立国会図書館の送信サービスを使ったサービスも始めている。しかし、コロナ禍の社会において、あらゆる面でDXが急速に進められる中、図書館として、その機能を十分に果たすうえで、サービスのあり方を見直す必要があると考える。

このため、障害者差別解消法や読書バリアフリー法の理念も踏まえ、特に障がい等により図書館サービスをうまく利用できない人に対するサービスの充実を図ろうとするものである。

## 第2章 現状と課題

### 1 現状及び環境の変化

#### (1) 県立図書館の入館者数

令和3年度の県立図書館の入館者数は、316,289人であり、令和2年度よりも増加しているが、令和元年度に比べて約13万5千人減少している。コロナの影響があることも想定されるが、中期的に見て減少傾向にある。

#### (2) 利用登録者数

利用登録者数は、ほぼ横ばいの約24万人であったが、障がい者サービス（身体障がい者、精神障がい者、視覚障がい者等の手帳所持者等が登録により利用できるサービス）の利用登録者は89人（令和3年度利用登録者数）にとどまっており、その大半は身体障がい者である。

県内には、身体・知的障がい者、高齢者、外国人、地理的な理由等、様々な状況により読書や図書館の利用に困難を伴う人も相当数在住していると考えられ、こうしたサービスの利用が広がらないのは、障がい者サービスの存在が周知されていないこと、また知っていても利用できない、あるいは利用しにくい状況があることが考えられる。

#### (3) 情報格差の解消に向けた法的枠組みの整備

令和4年5月24日、「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策に関する法律」が施行され、読書バリアフリー法に基づく視覚障がい者の読書環境の整備のみならず、障がい者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進が一層求められることとなった。

### 2 県立図書館におけるこれまでの取組

#### (1) 視覚障がい者等、活字の利用が困難な人に対する取組

令和3年度に全国公共図書館協議会が行った「公立図書館におけるバリアフリーに関する調査」（別添資料1）への回答によると、県立図書館では、読書バリアフリー法の対象である視覚障がい者等（視覚障がい者、読字に困難がある発達障がい者、寝たきりや上肢に障がいがある等の理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難である身体障がい者）を含め、活字の利用が困難な人に対して以下の取組を行っている。

##### ①障がい者等が利用しやすい（アクセシブルな）書籍等の充実

- ・一般資料室内に大活字本、CDブック、マルチメディアデジタイズ図書を集めたコーナーの設置

- ・子ども室に子ども向けの大活字本、LLブック、さわる本等を集めたバリアフリー図書コーナーの設置
- ・団体貸出文庫に大活字本、マルチメディアデイジー図書、布絵本等を集めたコーナーの設置
- ・ホームページを通じて音声読み上げ可能なコンテンツを含む電子書籍の提供（令和2年度から本格導入）
- ②障がい者サービスの提供
  - ・サピエ図書館や国立国会図書館等のサービスを利用してダウンロードしたデータの貸出し
  - ・宅配便を利用した本の貸出し
- ③読書を支援する環境の整備
  - ・対面朗読室、拡大読書器、音声デイジー再生機やマルチメディアデイジー図書閲覧用パソコンの供用
  - ・リーディングトラッカーの貸出し

## （２）図書館への来館が困難な人に対する取組

上記（１）に加えて、障がい、交通手段がない等の理由により図書館への来館が困難な人に対しては、以下の取組を行っている。

- ①アクセシブルな書籍等の充実
  - ・電子書籍サービス
- ②障がい者サービスの提供
  - ・宅配便を利用した本の貸出し
  - ・電話、インターネットでの調査相談、照会サービス等
  - ・市町村立図書館等への協力貸出
  - ・施設、学校等への協力貸出、団体貸出
  - ・絵本、育児書セットの宅配貸出
  - ・図書のWEB予約受付、市町村図書館での受取り、最寄りの市町村図書館での返却
- ③施設利用を支援する環境の整備
  - ・カウンターに筆談用ホワイトボードの配備
  - ・自動貸出機
  - ・車椅子の貸出し
  - ・多機能トイレ、障がい者用駐車場、車椅子用学習席等
  - ・点字ブロック、点字による館内案内

### (3) サービスの周知と質の向上

ホームページに「バリアフリーサービス」のページの掲載やリーフレットの作成・配布を行うとともに、障がい者に限らず、読書に困難を抱えている人への理解やサービスに対する職員研修を実施し、サービスの質向上を図っている。

## 3 課題

上記1及び2のような状況のなか、今後、県立図書館が障がい者等の読書環境の整備を進めていくうえでは、以下のような課題を念頭に、検討を進める必要がある。

### (1) 利用可能な書籍等の収集・提供推進に関する課題

#### ① アクセシブルな書籍等の収集等

- ・アクセシブルな書籍等は、図書以外の媒体や関連団体が発行する非売品資料など、出版情報を把握しにくい資料が多い
- ・アクセシブルな書籍等は、一般書籍と比べて発行数が少なく、市販の資料だけでは利用者のニーズに応えるのに十分ではない。また、子ども向けアクセシブルな書籍の発行が少ない

#### ② 電子書籍の収集等

- ・図書館向けに提供されている電子書籍のコンテンツ数はまだ少なく、同内容の紙資料と比較して高額であるため、所蔵点数を増やしにくい
- ・電子書籍のうち音声読み上げ機能に対応した形態で発行されているコンテンツはまだ少ない
- ・子ども向けの電子書籍の導入が進められていない

#### ③ その他のコンテンツの収集等

- ・視覚障がい者に限らず利用できる商業ベースのオンラインによるオーディオブックが図書館では所蔵されていない

### (2) 障がい者サービスの提供、周知に関する課題

#### ① サービスや支援策等の周知

- ・読書活動を支援するサピエ図書館や国立国会図書館等のサービスが知られていない、あるいは利用する方法がわからない
- ・読書活動を支援する資料や機器の存在が知られていない

#### ② サービスの使いやすさ、質の向上

- ・ホームページが障がい者、高齢者にとって容易にアクセスできるデザイン、構成になっていない
- ・一部の障がい者を除き、宅配貸出の送料が利用者負担となっている
- ・講演、講座での手話通訳サービス

- ・講演、講座、図書館利用での託児サービス

### (3) 読書を支援する環境整備に関する課題

#### ① 県立図書館施設・設備の利便性向上

- ・駐車スペースが狭く、駐車しにくい
- ・施設、設備のバリアフリー対策が十分でない箇所がある  
(入口が引戸になっていない箇所、車椅子利用者が利用しにくいカウンター、閲覧席)
- ・館内の椅子増設(休憩・軽読書用)、休憩、飲水スペース等の設置が必要である
- ・分かりやすい表現を用いた利用案内の整備等が必要である  
(点字による館内案内の拡充、音声案内、盲導犬同伴可マークの掲示)
- ・災害時にだれもが安全に、安心して利用できる環境づくりが必要である  
(複雑な避難動線、利用者用のエレベーターが1基のみ)
- ・視覚障がい者、身体障がい者等の移動時、利用時の介助者がいない
- ・利用できる公共交通機関が限られ、車を運転できない人のアクセスが不便である。

#### ② 読書支援機器等の整備

- ・アクセシブルな書籍等の利用に必要な読書支援機器は、高額なものも多く、自費で購入する場合、利用者の負担が大きい。また、機器の使用方法がわかりにくい
- ・県立図書館以外の身近な施設に、読書活動を支援する資料、サービスや機器が利用できる環境が整備されていない

### (4) サービス充実のための人材育成・体制整備に関する課題

- ・点訳、音訳、アクセシブルな書籍等の製作を行うことができる人材が全県的に不足している
- ・技術革新など変化の激しい中、県立図書館、市町村立図書館、学校図書館等関係職員による、障がい者サービスへの理解や支援方法に関する知識は十分とは言えない

## 第3章 基本的な考え方及び取組の方向性

### 1 基本的な考え方

上記の現状や課題を踏まえ、次の4つの方向性により図書館サービスの充実を図る必要がある。

〈方向性1〉アクセシブルな書籍等の充実

〈方向性2〉インターネット等を活用した図書館サービスの充実

〈方向性3〉だれもが利用しやすい施設・設備の充実

〈方向性4〉障がい者サービスに係る人材育成・体制整備

### 2 取組の方向性

#### (1) アクセシブルな書籍等の充実

視覚障がい者等が利用しやすい書籍等の収集・提供や電子書籍サービスのコンテンツ充実を図る必要がある。

##### ①アクセシブルな書籍の収集、提供

- ・市場で流通する資料を中心に、ホームページやカタログ、他県の所蔵情報等から広く出版情報の把握に努め、収集につなげる
- ・非売品や市販で流通していない等、入手が困難な資料については、関係機関との連携を強化することで、自館に所蔵していない資料でも提供ができるよう努める

##### ②電子書籍サービスの継続とコンテンツ充実

- ・アクセシブルな書籍等の一つとして電子書籍があるが、音声読み上げ機能に対応しているコンテンツもあり、文字サイズの拡大など、高齢者や視覚障がい者等、読書に困難を感じる人が利用しやすい機能を持っている
- ・紙の本のようにページをめくる必要もなく、来館も不要なことから、肢体不自由者の読書環境の整備にも有効な資料となりうることから、電子書籍サービスのコンテンツの充実を図る

#### (2) インターネット等を活用した図書館サービスの充実

視覚障がい者等がアクセシブルな電子書籍や端末機器を入手、利用しやすくするためには、詳細な情報提供が必要である。そのため、だれもが利用しやすいホームページの作成・充実を図るとともに、大分県点字図書館や市町村図書館と連携強化を図り、情報提供の充実を図る必要がある。

##### ①インターネットを利用したサービスの充実、情報提供の強化

- ・サピエ図書館及び国立国会図書館の視覚障がい者等用データの送信サービス等を利用した資料提供を行うとともに、その利用方法の相談を受け付ける



## ②障がいの特性に応じたサービスの充実、情報提供の強化

- ・障がいの特性に応じたバリアフリーサービスの充実を図るとともに、団体貸出等の資料提供サービスを含め、視覚障がい者等の当事者団体や家族会等の支援団体、また小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に対する周知を徹底する

## ③アクセシブルな書籍や支援機器に関する情報提供の強化

- ・音声デージー図書等のアクセシブルな書籍の展示会を実施するとともに、拡大読書器、ルーペ、音声デージー再生機等の読書支援機器の提供、音声デージー再生機等の端末機器の貸出などを行う
- ・障がい者向けサービスを紹介するリーフレットの作成・配布等、情報提供の充実を図る

## ④ホームページを活用した情報提供の強化

- ・情報を誰もが利用しやすいように、ユーザビリティ、アクセシビリティに配慮したホームページの作成・充実を図る

### (3) だれもが利用しやすい施設・設備の充実

県立図書館は建築後、28年が経過し、経年による躯体の劣化や設備の老朽化による機能低下などが顕在化し、施設・設備の不具合への対応が求められている。また、利用者が使いづらい箇所があり、施設・設備の利便性の向上を図る必要がある。

加えて、近年、多発している自然災害への備えにも配慮する必要がある。

#### ①施設・設備のバリアフリー化の充実、老朽化への対応及び利用者の利便性向上

- ・手すりの設置や、スロープの設置による図書館施設の段差解消、利用者に配慮したトイレ等の施設整備を進める
- ・不具合施設、設備について、計画的な保全工事を進める
- ・点字や音声案内、ピクトグラム、やさしい日本語を使用したわかりやすい利用案内を充実させる
- ・駐車場のスペースを広げるなど、利用者の利便性の向上を図る
- ・障がい等により来館が困難な人が必要とする移動支援等について、具体的な事例をもとに、関係する他の組織等と認識の共有化を図る

#### ②多発する自然災害への対応

- ・利用者が地下駐車場から使用できるエレベーターが1基しかなく、地震等で不具合が発生した場合、障がいのある方の館内での移動が難しくなるため、様々な場面を想定した対応策を検討する
- ・災害発生時に障がい者等が安全に避難できるよう避難訓練を実施するとともに、委託業者を含めた職員を対象とし、非常用階段避難車（キャリダン）や担架の使用方法の習得等に係る研修を、引き続き実施する

#### (4) 障がい者サービスに係る人材育成・体制整備

県内全ての公立図書館及び学校図書館において、障がい者サービスの充実に努め、円滑な利用を促進するためには、サービスを担う人材が不可欠である。そのため県立図書館が中心となり、必要な知識・技術を身につけるための研修等を実施し、人材育成を進める必要がある。

また、人材育成においても大分県公立図書館等連絡協議会や大分県学校図書館協議会、大分県点字図書館との更なる連携強化と情報の共有を進める必要がある。

##### ①人材育成の充実

- ・「大分県図書館大会」や「大分県公立図書館等職員研修会」において、図書館長や司書、学校司書等関係職員を対象に、「障がい者サービス」や「読書に困難を抱えている方々への支援」に関する最新の動向や好事例を学ぶための研修や講演会を定期的実施する

##### ②関係機関の人材育成の支援

- ・大分県点字図書館において音声デイジー図書などのアクセシブルな書籍の製作に携わっているボランティアに対して、読みの調査等へのレファレンスサービスによる支援を行う

## 第4章 結び

今回の諮問を受け、県立図書館の障がい者サービスに係る課題や、これまでの取組を整理し、そのうえで、障がい等により図書館サービスをうまく利用できない人に対するサービスを充実していくための基本的な方向性について、答申としてまとめた。

その際、様々な状況により読書や図書館利用に困難を伴う者への配慮が必要であることから、読書バリアフリー法や「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策に関する法律」の理念・目的を踏まえることを意識した。

なお、読書バリアフリー法でも地方公共団体で具体的な計画を立て、組織の枠を超えた取組や関係者間で連携した取組が行えるよう努めなければならないとされているように、答申の実現にあたっては、関係する他の組織等との協力・連携が不可欠と考えられる。

今後、本答申に添って、障がい者等の読書環境の整備がより一層推進されるよう、県立図書館においては、自ら具体的な取組を進めるとともに、他の組織等に対する積極的な情報提供や働きかけを行うことを期待したい。



## 公立図書館におけるバリアフリーに関する調査（抜粋）

## 大分県立図書館における読書バリアフリーの取組について

## I 蔵書・資料製作（令和2年度末）

資料種別	全所蔵数	備考
1 点字資料・点訳絵本（冊子）	21	
2 点字データ	0	
3 点字つき絵本 （絵本に点字のついたもの。図書館が点字シールを貼ったものや、さわる絵本のうち、点字つきのものもこちらに含める。）	57	
4 カセットテープ（障害者向け）	69	
5 音声デイジー	0	
6 その他の障害者向け録音資料	538	CDブック
7 マルチメディアデイジー	140	
8 テキストデイジー	0	
9 テキストデータ	0	
10 大活字本（市販）	1616	
11 拡大写本（製作したもの）	0	
12 LLブック	23	
13 布の絵本	27	
14 さわる絵本 （点字つきを除く。点字つきさわる絵本は「点字つき絵本」に含める。）	93	
15 その他のバリアフリー絵本 （音がでる絵本、手話絵本など）	9	
16 聴覚障害者用字幕・手話入り映像資料	1	
17 バリアフリーDVD	0	
18 電子書籍 （EPUB等のアクセシブルなコンテンツに限る）	196	音声読み上げ可能132点
19 自館製作資料	0	

## II サービス

サービス	実施の有無	備考
1 郵送貸出サービスの発受施設の指定	○	特定録音物等郵便物 心身障害者用ゆうメール
2 サピエ図書館の会員登録	○	令和3年8月登録
3 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの会員登録	○	令和3年8月登録
4 障害者サービスの利用登録	○	視覚障害者等、視覚による表現の認識が困難な者（著作権法第37条第3項や読書バリアフリー法でいう視覚障害者等） 重度の障害により図書館へ来館することが困難な方
5 対面朗読サービス	×	
6 点字・録音資料の郵送貸出	○	令和3年10月開始
7 一般資料の郵送貸出	○	障害者向け宅配サービス
8 職員等による宅配サービス	×	
9 施設（障害者・高齢者施設等）入所者へのサービス	○	団体貸出
10 入院患者へのサービス	○	県立病院院内学級への協力貸出、団体貸出
11 受刑者等の矯正施設へのサービス	○	大分少年鑑別所への協力貸出、団体貸出
12 特別支援学校・学級等へのサービス、連携	○	団体貸出、協力貸出 県立聾学校への出張おはなし会
13 国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスへのデータ提供	×	
14 来館困難者に対する宅配サービス	○	児童書・育児書宅配サービス 高齢者向け宅配サービス
15 手話によるお話し会	×	
16 バリアフリー映画会	×	令和3年度1回
17 高齢者向けイベント	×	
18 外国人向けイベント	×	
19 イベントにおける要訳筆記、手話通訳	○	「やさしい日本語」の研修会
20 りんごの棚の設置	○	子ども室のバリアフリー図書コーナー

サービス	実施の有無	備考
21 大活字本コーナーの設置	○	
22 高齢者のための資料コーナーの設置	×	
23 外国語の資料コーナーの設置	○	
24 デイジーコーナーの設置	○	マルチメディアデイジーコーナー
25 民間電子書籍サービス	○	障害者のアクセシビリティ考慮
26 デイジー再生機・タブレット等の貸出	×	館内利用
27 デイジー再生機等の操作支援	○	
28 障害者用ICT機器に関する利用支援・ 情報提供	×	
29 障害者サービスに関する広報	○	ホームページ、リーフレット、チラシ 大分県「障がい者福祉のしおり」

### Ⅲ 施設・設備

施設・設備	設置の有無	備考
1 バリアフリートイレ	○	多目的トイレ
2 オムツ交換台	○	多目的トイレ 授乳室
3 段差があるところのスロープ	×	
4 障害者用駐車場	○	
5 障害者に配慮した（車椅子用ボタン、鏡、点字表示、音声など）エレベーター	○	
6 貸出用の車椅子	○	
7 館内の点字ブロック	○	エントランス、階段付近
8 対面朗読室・録音室	○	対面朗読室
9 障害者用閲覧室	×	
10 緊急時用点滅ランプ・モニター（聴覚障害者のための警報装置）	×	
11 誘導チャイム（視覚障害者に入口を案内するもの）	×	
12 ヒアリングループ（磁器誘導ループ）	×	
13 車椅子利用者に配慮した閲覧席（高さ調節のできる閲覧机を含む）	×	
14 車椅子利用者に配慮したカウンター	×	
15 触知案内板・点字案内板	×	
16 音声案内	×	
17 ピクトグラムやイラスト等を用いた案内表示・サイン	○	
18 手すり等の点字表示	×	
19 拡大鏡、老眼鏡	○	
20 リーディングトラッカー、リーディングループ	○	リーディングループなし



施設・設備	設置の有無	備考
21 筆談ボード	○	
22 コミュニケーションボード	○	中央カウンター等
23 レーズライター（表面作図器）	×	
24 立体コピー機	×	
25 拡大読書器	○	令和3年度1台更新 1台老朽化
26 書見台	○	
27 自動ページめくり機	×	
28 音声デイジー再生機	○	令和3年度2台購入
29 マルチメディアデイジーを再生するためのタブレット・パソコン	○	タブレットなし
30 音声読書機	○	老朽化、未使用
31 読み上げソフトがインストールされたパソコン	×	
32 点字ピンディスプレイ	×	
33 点訳ソフト	×	
34 点字プリンター	×	
35 音声デイジー編集ソフト	×	
36 マルチメディアデイジー編集ソフト	×	
37 デジタル録音機	○	老朽化、未使用
38 録音資料製作用パソコン、オーディオインターフェイス	×	
39 CDコピー機	○	老朽化、未使用
40 点字ラベラー	○	令和3年度購入

#### IV その他

項目	実施の有無	備考
1 障害者サービスに関する職員研修受講	○	国立国会図書館、日本図書館協会、関係団体主催の研修会を受講
2 障害者サービスに関する市町村立図書館職員向け研修会の実施	○	平成29年度が最後
3 点字図書館との連携	○	大分県点字図書館の視察 大分県点字図書館広報誌に寄稿
4 図書館協力者・ボランティアの養成講座や研修会	×	

## 用語集

用語	説明
ディスレクシア	全般的な知的発達に正常で、学習意欲があるにもかかわらず、文字の読み書きに限定した困難を有する疾患。
サピエ（図書館）	視覚障がい者及び視覚による表現の認識に障がいのある人に対して点字データ、デージーデータ等を提供するネットワーク。
アクセシブルな書籍	「アクセシブル」とは、「利用しやすい」という意味であり、「アクセシブルな書籍」は、読書バリアフリー法第2条第2項の「視覚障害者等が利用しやすい書籍」のこと。点字図書、拡大図書、録音図書、触る絵本、LLブック、布の絵本等、視覚障がい者等が、その内容を容易に認識できる書籍。
マルチメディアデージー図書	音声とテキストデータ（文字）と画像をシンクロ（同期）させて再生できるもの。パソコンやタブレット等で利用する。
大活字本	視力が低下した人や、高齢者などにも読みやすいように、大きな文字で書かれた本
LLブック	読むことに困難を感じている人に合うよう、分かりやすく読みやすい形で書かれた本のこと。
さわる本	さまざまな材料を用いて盛り上がった形の挿絵を作り、それを貼り付けるなどして、指で触って絵がわかるようにした絵本等。
布絵本	さわる絵本の一つで、厚地の台布に絵の部分を縫い付けたり、貼り付けたりし、マジックテープやボタン、ファスナー、紐等を用いて、留めたり、外したり、結んだりできるようにしたもの。
対面朗読	図書館の本や持参した本を、朗読者が対面して読み上げるもの。
拡大読書器	カメラで撮影した文字や画像を拡大して表示することにより、読み書きを支援する機器。
音声デージー	音声データに章や節、任意のページに飛ぶことができる機能を付加し、デージー再生機等で読み上げさせて聴くことができるもの。
リーディングトラック	文字がよみづらいと感じている方の読書をサポートするツール。文書や本の読みたい行だけに視点を集中することができるもの。
協力貸出	県内の図書館、学校等を対象に、県内図書館・学校用システム（OLIB）で予約を受け付け、配送を行うもの。
団体貸出	県内の図書館、学校、幼稚園、読み聞かせグループ、福祉施設等の登録団体に1000冊まで3ヶ月以内で本の貸出を行うもの。
オーディオブック	書籍等の文章を読み上げ又は口演し、必要に応じて効果音及びBGM等を付与することにより、利用者が耳で聴くことを通じて情報を得られる形式の電子音声コンテンツ。

点訳、音訳	文字や文章を点字化、音声化すること。
ユーザビリティ	Webサイトの使いやすさや有用であること。
アクセシビリティ	Webサイトへのアクセスのしやすさのことで、見やすさや、使い勝手など幅広い要素を含んだ用語。
ピクトグラム	絵文字や絵を使った図表を用いて情報や注意を示すために表示される記号。
「やさしい日本語」	日本語話者が、普通の日本語より簡単（易しく）に、相手を思いわかりやすく伝わる（優しく）工夫した日本語。
レファレンスサービス	資料や情報を求める利用者に対して、図書館の資料やデータを使って文献の紹介・提供などを行うサービス。

## 大分県立図書館協議会委員名簿

令和4年4月21日現在

選出分野	氏名・任期	職名・所属	任期	備考
学校教育関係者 (2名)	栗屋 真琴	大分県学校図書館協議会幹事 (大分県立大分舞鶴高等学校教諭)	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
	佐藤 さゆり	大分市立春日町小学校 校長	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
社会教育関係者 (4名)	古後 粒勝	前九重町教育長	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
	長尾 秀吉	別府大学 文学部人間関係学科教授	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
	後藤 礼次郎	社会福祉法人 大分県盲人協会 事務局長	令4.4.21 ~ 令5.9.4	
	植田 誠	佐藤義美記念館職員	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
家庭教育の向上 に資する活動を行 う者 (2名)	川原 恒太郎	学校法人ひまわり学園 認定こども園ひまわり幼稚園 園長	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
	的野 慶子	主婦	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
学識経験者 (2名)	指原 あずさ	大分合同新聞社 文化科学部 記者	令3.9.5 ~ 令5.9.4	
	清水 万敬	大分県立芸術文化短期大学 理事兼附属図書館長 音楽科教授	令3.9.5 ~ 令5.9.4	

(選出分野毎 50音順)